

ヨーロッパ短期滞在報告

物理学専攻 博士課程2年 吉永尊洸

ALPS(短期) 海外派遣制度を利用して、3月9日~22日にイタリア・スイスを訪問した。まず、3月9日~13日にローマ大学の Luca Silvestrini 教授の研究室に滞在した。ホストはポストクの三島智氏である。ローマ大学では、フレーバー物理が盛んである。私の研究はレプトンフレーバーに関するものであり、関連性が高い。私は、ローマ大学にて「Probing SUSY Contribution to Muon $g-2$ 」というタイトルでセミナーを行い、セミナーの内容やその他多くの素粒子物理の話題の議論を行った。特に、本研究室の Diptimoy Ghosh 氏には、本研究の LHC 現象論に関する有用な助言を頂けた。私は海外でのセミナーは初めてであったため、英語で自分の研究を伝えること、英語で議論することは自分にとって非常に良い経験となった。

3月14日は、ジュネーブの CERN に滞在した。東大の駒宮研の南雄人氏の案内の下、ATLAS 検出器の見学、および LHC に関する議論を行った。ATLAS 検出器を間近で見ることができ、自身の研究についてより具体的なビジョンを持てるようになった。

3月15日~22日は、イタリアで行われた国際会議 Moriond 2014 に参加した。本会議では、様々な新しい実験結果が報告され、自分の研究の幅を広げる良い機会となった。また、ローマ大学からポストクの Otto Eberhardt 氏も会議に参加しており、積極的に自分と議論をして頂いた。

今回の海外派遣を通じて、英語で伝える能力の重要性を強く認識することができた。有益な議論をして下さった現地の方々、およびこのような機会を提供して頂いた ALPS の皆様にこの場を借りて深く感謝致します。

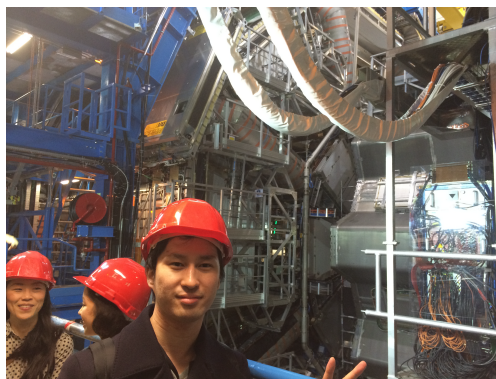


図1 CERN の ATLAS 検出器にて